



新年のご挨拶



皆さまには健やかに新春をお迎えのことと存じます。

振り返ります昨年(2011年)は東日本大震災の年という、私たちにとりましては忘れ去ることのできない特別な年となりました。当院は被災地に計13名の職員を派遣し、全国各地から駆けつけた医療従事者とともに救援活動に参加しました。復興への道のりは遠く、まだ緒についたばかりですが、私たちにできる支援をこれからも続けてまいりたいと考えます。「辰年」の本年、「昇龍興年」となりますことを心より祈念いたします。

院内的には、2月に開催しました「健康教室」には地域から100名を超える多くの皆さんにご参加いただき、11月の「病院祭り」は入院患者さんとご家族と職員がつなぎ合い、笑顔と歓声あふれる一日となりました。また地域の社会福祉協議会による「福祉講座」には講師として医師、看護師、理学療法士をお招きいただき、地域づくりの一端を担わせていただきました。今後とも地域、患者さんとの「絆」を深める取り組みをすすめていく所存です。当院をより一層広く地域の皆さんに知っていただく取り組みでは、ホームページの全面リニューアル、「病院だより」の定期発行、病院看板の整備、近隣住民の方のご協力による最寄駅案内表示看板の設置を行いました。また設備整備では特殊浴室の改修、放射線一般撮影機器の新規更新を行いました。診療の充実では火曜日の午後診察として新たに内科・神経内科外来を開設し、今後「脳卒中外来」としての発展を期待しています。学会では看護部、リハビリ療法部を中心に、例年以上に多くの演題発表の機会に恵まれ、日々の研究成果を披露し高い評価を受けました。本年も職員一同力を合わせ、地域に根ざした病院づくりと病院の質の向上に努めてまいります。

さて、当院は今年創立30周年を迎え、名実ともに成熟が求められるステージへと入っていきます。今日までご支援いただき、育てていただきました地域の皆さまには深く感謝申し上げますとともに、今後の病院づくりへの更なる叱咤激励をお願いするものです。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

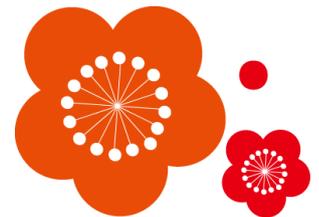
院長 坂口昇

脳卒中のおはなし① ～脳卒中って どんな病気?～

今後病院だよりでシリーズとして脳卒中のはなしを担当させて頂くことになりました、神経内科の片山です。第1回目は脳卒中ってどんな病気なのか?という話をしたいと思います。

脳の血管に起こる病気を「脳卒中」と呼びます。この中には、脳の血管が詰まってしまう「脳梗塞」、脳の血管が破れて脳の中に出血する「脳出血」、脳の外側に出血する「くも膜下出血」があります。つまり脳梗塞は脳卒中の1タイプというわけです。かつて日本人の脳卒中といえば脳出血が中心でした。脳出血は「脳溢血」とも呼び、脳卒中はほとんど脳溢血と考えられていました。しかし、最近では生活の欧米化に伴い脳梗塞が増えています。現在、脳梗塞は脳卒中全体の7割を占めるようになっています。

脳卒中の患者数は現在約150万人といわれ毎年50万人以上が新たに発症していると推測されています。脳卒中はがん、心臓病に次いで日本における死因の第3位となっています。そして「寝たきりになる原因」の3割近くが脳卒中などの脳血管疾患であり、全医療費の1割近くが脳卒中診療に費やされています。次回はこの脳卒中の予防についてお話したいと思います。



神経内科 片山 由理